



岡村病院
院内報

歩 (あゆみ)

第 37 号

発行 岡村病院
編集 歩(あゆみ)
編集委員会
平成12年1月25日

岡村病院 基本理念

私たちは、患者さん本位を第一に考え
高度な専門医療技術をもって
地域社会に貢献することを目指します。



「帰 港」 小谷了一先生 写

今月のことば

明るい職場、愛される病院

20世紀最後の年を迎えました。20世紀は戦争の時代、科学の時代などと言われて来ました。そしてそれは或程度の成功を見ました。物は豊かになり、生活は便利になりました。

しかし人間の幸せはそれだけでは得られませんでした。学級の崩壊、家庭の崩壊、道義の廃退、環境の破壊など、心の痛くなるような事が次々と起っています。

その反省から今、心の問題が大きく取り上げられて来ています。

「競い合って生きるよりも助け合って生きることを心がけよう。」「人の気持を考えなければいけない。自分だったらどう思うか。」というような言葉をよく耳にします。今、私たちにとっても一番大事なのは「思いやりの心」ではないでしょうか。

20世紀しめくくりの年、初心にかえって、互に思いやりのある明るい職場づくり、そして患者さんから信頼され愛される病院づくりに一層の努力をいたしましょう。

紀元2000年がすばらしい年でありますように。

肺結核について



高知市保健所長 森 岡 茂 治

昨年10月に岡村病院で結核のお話をしましたが、それに基づいて書かして頂きます。

結核菌の性状

結核菌は普通の一般細菌と比べ細胞の外壁に脂質成分（ロウ状）を含み、これが結核菌の特徴となっています。

標本染色として石炭酸フクシンで赤色に染まり、他の細菌は塩酸アルコールをかけると色が抜けますが、結核菌はロウ状の成分のため、酸に抵抗して色が抜けない菌として、抗酸菌と命名され、他にライ菌、牛型結核菌、非定型抗酸菌として沢山あります。

一方、ロウ状成分のカプセルのため酸、アルカリ、乾燥にも強く、冷暗所では3～4カ月間は生存し、空气中を漂って感染源になりますが、加熱や直射日光（紫外線）には弱く、ロウ状成分が破壊され滅菌されますし、加熱では100℃で10分煮沸すれば十分ですが、病院などでは高圧蒸気（121℃）で30分滅菌する事になっています。

特に痰の中に有れば消毒薬では容易に殺菌されませんので、手の消毒には石鹼とブラッシで洗い流す方がよい方法です。

又、患者さんが使用した衣類や布団は直射日光に当てればよいのです。

結核の感染と発病

インフルエンザなどは感染して1～3日で発病し、咳や熱が出てすぐ他の人に感染させますが、結核は感染しても一生を通して10～20%しか発病しませんし、その大部分は2年以内で感染して2、3カ月から6カ月して発病し、そしてそのまま治療もせずに放置していると、その後2、3カ月から6カ月して痰に結核菌が出始め他の人に感染さす様になります。この様に結核は感染し、発病してそのまま放置して少なくとも数カ月して初めて次ぎの感染源になります

ので、感染が疑われる時は、この間に調査、検査、健康診断をします（勿論最初の感染源になった人は既に隔離されていますので、もう周りに感染さす人はいません）。最初の患者さんが出た直後に感染を受けたと考えられる人の胸部レントゲン検査を行います。そして結核予防法で予防投与の認められている30歳未満の人には、接触があって2カ月後にツベルクリン反応検査をするのが一般的手順になっています。

これにより感染を受けたと判明した30才未満の人には結核の薬INH（アイナ）を6カ月予防投与します。これにより発病が50～70%減少すると言われています。

この間最初の患者さんの結核菌の性状、薬の効き具合も解りますので、これに対応した措置が出来ます。その後6カ月毎3回の胸部レントゲン検査により発病者が出れば、治療を行い次ぎの感染源を出さない様にします。

ツベルクリン反応検査とBCG

ツベルクリンは結核菌を発見したコッホにより結核の治療法として研究されたもので、結核菌を培養した液体培地の濾液を滅菌した液（ツベルクリン液）で、結核の患者に抵抗力を付けるために、この液を微量から徐々に増量しつつ皮下に注射するのですが、注射後4、5時間から10時間にわたって高熱、嘔吐の全身症状が出て実際に使われず放置されていました。その後感染診断という観点から見直され、マントウクスにより皮内注射法が普及しました。そして、ツベルクリン液の中の蛋白質が結核菌に最も関係していると言う事で精製され、精製蛋白誘導物（PPD）と名付けられて現在結核感染診断用の0.05γ PPDとなっております。

BCGはフランスのカルメットとゲランが有毒牛型結核菌を継代して繰り返し培養していき13年間に230代の継代を経て、人間に結核の病（3頁下段へつづく）

医療サービス

院長 岡村 高雄
(心臓血管外科科長)



西暦2000年問題も無事クリアーして新しい年を迎える事が出来、一安心をしています。しかし、本年度は介護保険の導入、保険制度の待った無しの改革、カルテの開示問題が迫っております。医療に於ける効率化、無駄の排除が言われていますが、私共は医療の原点は患者様に対するサービスで有ると考えています。

本院にてもカルテの開示方向に向けて取り組みを開始する必要があり、早急に皆様のご要望に対応可能な状況にしたいと考えております。この問題の基本はインフォームドコンセント(医療に対する説明と同意)の延長上に有り、医療、診療についての十分な説明と患者様の納得が得られない場合について生じうる問題と考えていますが、一方では情報の開示が現代社会では要求をされる時代となっています。職員一同患者様の為の医療を心がけていますが、医療の不透明性も指摘されており、私共は透明な医療、信頼される医療を目指しており、この為に必要な情報は公開して行くつもりです。しかし、一方では医療法と言われる法律により規制をされており、現在、公開可能な情報は診療時間、診療科目、医師の名前、救急の有無等に限定されており、皆様が望む情報を十分に提供出来ない時代です。唯一インターネットでは医療情報の公開が可能であり、本院もホームページを持って様々な情報を提供していますが、今後は出来

るだけ内容を充実させて行きたいと思っています。

日々の診療、祝祭日での対応等まだまだ不十分な点が多々有るかと思っておりますので出来るだけ皆様のご要望、ご質問に対して迅速に十分なお答えをし、対応をして行きたいと思っています。この為に本年度には医療サービス改善委員会を立ち上げて、早急に皆様方のご要望にお答えして行きたいと考えていますので、忌憚のないご意見を賜れば有り難く思います。

医療改革の一つとして政府が推進をしております医薬分業に本年2月より踏み切る事としました。医薬分業により患者様の待ち時間が短縮し、薬の内容に対する記載等もより詳細になるものと考えています。又、入院中の患者様に対してはより詳細な薬の情報提供、説明が可能となるものと思っています。現在より病院と薬局の2箇所にてお支払いを頂かなくなる不便が生じますが、病院での待ち時間を出来るだけ短くし、患者様のサービスにつながる方向にしたいと考えておりますので、ご不明の点がございましたら何時でもご相談下さい。

職員一同が患者様の医療の質の向上、サービスの向上を目指して今年一年取り組んで行きたいと考えていますので本年も何卒宜しくお願いを申し上げます。

(2頁よりつづき)

気は起こさないが免疫力は付ける弱毒化した牛型結核菌を作り出しました。

これがカルメットとゲランの作った菌で、Bacille de Calmett et Guerinの頭文字を取ってBCGと命名され、日本では乳幼児期の結核

の予防のために接種されています。

その評価は大人においてはハッキリ出ておりませんが、乳幼児においては結核の発病は間々ありますが、重症な結核性髄膜炎とか全身結核の粟粒結核には予防効果が世界的に認められています。

患者さんからのお願い

2度目の入院を経て感じた事

70年私は何をして来たんだろう、ベッドに横になっている時いつも考える事はそればかり。でもいつも答は出ない。

何の進歩もない毎日のくり返し唯病むだけの自分。これでも人と言えるだろうか？ 独り身のためこれ迄一生懸命突っ張って必死に生きて来たけど、もうがん張りも限界だと感じる時、此のベッドの上で2度も生きる事への尊さを教えられた気がします。周りにはもっとももっとつらい人が一ぱいいる事、それを支える院長先生始

眠られぬ夜に

「眠れない夜はつらい。しかし、いたずらに嘆いていないで、我々はそれを日頃怠りがちな自己反省の為の静かな、妨げられない時間として活用しようではないか…」

これは有名なスイスの思想家カール・ヒルティの著書「眠られぬ夜のために」の表紙の文である。

眠られぬ夜とは全く無縁の頃に読んだこの本を、眠れない夜はつらい今この時に読んでみようと思ひ、電話で頼むと、娘は本棚の奥から探し出して持って来てくれた。

ぱらぱらとめくる程に到る所赤線、赤○。一読では理解に苦しむ文を、あの多忙の日々によくも読んだことよと思ひながら、一日中拾い読みに熱中。というわけで頭脳に無理じいを行ったので今夜は眠れるゾと、眠剤そこのけで早々に消灯。が、あにはからんや昼間の赤線の所々がちょろちょろと入れかわり立ちかわり顔を出す。

「老年期の始まるころ、一度過去にきまりをつけ…、怒りも後悔もなく…、過ぎ去ったすべての事に感謝しなさい」なる由。ならば今夜は昔々の善き事どもに感謝しようじゃないかと心決めれば早くも参上したるは見事なさわち料理。

それは村祭りの日のごちそう。全校あげて百

5F 畑山春猪

め先生方看護婦さん達、オハヨウゴザイマスの明るい笑顔の学生さんらに、あーあ命ある限り生きねばとはげまされる毎日に変わりました。もう1度がん張ろうと思います。様々な人々のいとなみと又苦しみを勉強させて戴きました。ありがとうございます。又、人の暖かさとおふれ合いも痛感しました。

院内でのお友達もでき退院しても折にふれおつきあひして行こうと新たな希望もわいて来ました。

3F 和田依子

人にも満たぬ小さな小学校のある海辺の村。古い木の校舎は走ると廊下はゆさゆさとゆれた。子供達とわざとにそれをやると「こらっ」と校長先生の怒号。あゝその声まで懐しく思い出すヨ。祭りの日は授業は半どん。子供達の家招かれてごちそうに預る日。大敷漁業の盛んな海辺とあって家宝のさわちに盛られた見事な魚のいけづくり。なのに何故か？この夜出て来たのは威厳に満ちたその魚の顔ではなく、すみっこに置かれた金時豆の天ぶらであった。その味を今この夜舌の上に乗せて…。珍らしくて、おいしくて、嬉しくて、その気分まで添って…。この頃スーパー等ではいるが妙に薄っぺらであじけない。郷土の誇るかの海辺のはころんと丸まって田舎くさく、もちっとして金時ここにござるの味。ありありと味わってこうこの気分。

嬉しい事を思い出させて下さった眠られぬこの夜、ヒルティ先生ありがとうございますと文字通り感謝。よし退院のあかつきには孫達に作ってやろう…金時豆の天ぶらを。豆は新物。メリケン粉は国産100%。いずれも北海道産のがあるある。あゝ眠るどころか夜が明けるウ。

翌日、心地よき昼間のまどろみ。

俳句ポスト

水田雅吉子

冬紅葉盛ん大黒さまの裏 青木静枝
伊野町の「梶(すぎ)本神社」は大黒様と呼ばれ、親しまれています。春と秋の大祭には豊作と商売繁盛を願って、数万人の参拝客が訪れるそうです。このとき儀式殿には、和紙で作られた紙人形が、100体、200体と飾られ、これを見るだけでも得をした気持ちになります。あざやかな紅葉の様が、福笹を思わせて、何ともおめでたい句です。

大根の山の輝く納屋灯り 八木 敬
何気ない暮らしの風景なのですが、心を立ち止まらせてくれました。漬け物用の大根でしょうか。寒気の迫る夕刻の納屋の中に、真っ白に積み上げられた大根の美しさです。荘厳とも言える情景に打たれました。

木枯らしのすげなく過ぎる知らぬ町 秋山武子
昔、ジェリー藤尾の「遠くへ行きたい」という歌が流行りました。大好きで、今でも時々口ずさんでいます。旅の良さには、ちょっぴりの寂しさを味わう良さも含まれているようです。旅で立ち寄る町と、何かの用でたまたま知らな

い町を歩くのとでは、気分は大違いです。不思議ですね。作品は後者のようです。今回はどの句も寂しい趣です。お変わりありませんか？

小波や小島の秋の独り言 中山幹生
「隠岐にて」と但し書きがありますので、日本海ですね。鏡のように穏やかな…とても形容されそうな晴れた海に、小島が点在しています。その回りにだけ白くさざ波が立っています。まるで小島が咬いているようだと、作品は言っています。秋うらら…といった感の一日、大景が目に見えます。

独り居のはかどらぬまま冬支度 奥山貴司
今年は殊の外残暑が長かったせいか、足早に秋が行ってしまいました。ぐずぐずだらしのない衣替えをしてしまいましたので、句の心情が良くわかります。専業主婦の私でさえそれでも、男の方なら、面倒この上なし…といったところでしょう。いいではありませんか。(目出度さも中くらいなり…)と、飄々として二千年紀初の正月を楽しもうではありませんか。

一人居の一つの音のおでん鍋 青木静枝
城鳩のよく肥えており冬うらら 八木 敬
貝殻のような音する干大根 秋山武子
彼の人に抱かれし夢紅葉いづる 中山幹生
イブセンに風のたちまち馬肥ゆる 雅吉子

新しい 環境になって

4 F 看護婦 下城 晶



私が九州の福岡から高知に来て、岡村病院に勤めるようになって半年以上がたちました。

高知に住みはじめて最初に思ったことは、高知の人の第一印象として話し方がきついなあということをやまず強く感じました。街の中で話している人達をみて普通に話しているのかと思うほどでした。今でこそ高知の言葉にも慣れてはきましたが最初は戸惑ったものでした。

勤め始めて間もない頃、仕事をしながら患者さんと接しても名前が「下城」という名字がめずらしいのか、私の話し方自体に九州弁のなまりがあるのかわかりませんが、よく患者さんに

「あなたは高知の人じゃなからう」と聞かれました。九州の福岡から来たことを話すと、九州に行ったことのある患者さんとはそこで九州の話で盛り上がり、九州にいた頃のことを懐かしく思い出したこともありました。

そして高知の生活に慣れてきた頃になると、何人かの患者さんから話をしている最中に、「あなたは幡多の人ね」と聞かれるまでになり土佐弁も少しずつマスターできるようになりました。

今までは、九州以外の所で暮らしたことがなかった為、高知での生活に慣れるのか最初不安はありましたけど岡村病院のスタッフの人達との出会いがあり、その人達に支えられここまで頑張ってきたと思っています。

高知に住んだことは、私の人生の中で一番の冒険でしたがとても貴重な体験ができ、多くの事を学ぶことができたと思っています。

沖縄旅行

外来看護婦 北川和佳



私は去年8月、沖縄に行って来ました。一度は行ってみたいと思っていたので、すごく嬉しかったです。

沖縄料理を食べてみたのですが、ちょっと食べられないなというものもありました。

一番思い出に残ったのは、スキューバダイビングです。台風の影響で波が高く「少し危険だ」とインストラクターは言いました。一人一人にインストラクターがついて水中にもぐるのですが、波が高いのと、何らかの恐怖心がわいてきて、「やるんじゃないかった」と後悔しました。

しかし、海中に入ると真青で、魚がたくさんいて、きれいで感動しました。でも不安だったのでインストラクターの親指をずっと握っていました。

今年は紀元2000年、よい思い出の年になってほしいです。

— * — * —

ニューフェイス紹介



百田 恵子さん
看護婦（外来）
県立総合看護専門学校第二看護学科卒
趣味 ドライブ



中野 良さん
看護婦（3F病棟）
土佐看護専門学校看護学科卒
趣味 単車ツーリング



伊藤 光子さん
看護婦（4F病棟）
同愛記念病院附属高等看護学院卒
趣味 読書

退職 ごくろうさまでした

宗本 知香さん(看護婦) 岡林 都子さん(看護婦)
前野 志乃さん(看護婦) 野々宮照美さん(看護婦)
野村美奈子さん(看護学生)

非常勤医師紹介



畠中 卓士先生
慶応義塾大学医学部卒
医学博士
専門 整形外科
畠中クリニック院長
高知市追手筋1丁目

医薬分業開始について

当院では2月1日より医薬分業を開始いたします。

医薬分業にともない、外来の方の薬は診察後、当院で発行する処方箋に基づき院外の調剤薬局で受取って頂くこととなります。

ご協力の程よろしくお願いいたします。

これは今、国（厚生省）が積極的に推進している病院＝診察、調剤薬局＝薬という分業体制で、最近多くの病院が導入を開始しています。

病院では処方箋をお渡し致しますので、患者さんにご自分の薬の内容を知ることが出来ますし、調剤薬局ではその薬についてよく説明してくれ「薬歴」として記録し、保管してくれますので、薬の重複や飲み合わせなどの危険をチェック出来ます。

また、調剤薬局では処方された薬の名前、飲み方、効能、効果、副作用などを分りやすく書いた紙を渡して説明してくれますので、ご自分でも薬のことがよく分りますし、その薬を服用中に他の病院にかかった時は、その紙を持って行けば服用している薬が直ぐに分ります。

当院の近くにも調剤薬局が出来ていますし、またご近所の調剤薬局或は行きつけの調剤薬局がおありの方は、そちらでも調剤して貰うことが出来ます。

ご不明のことがありましたら当院の薬局・受付または看護婦にお聞き下さい。

ホームページアドレス

<http://www.okamura-hp.or.jp>

メールアドレス

info@okamura-hp.or.jp